

11月12日令和5年度学校安全(防災)総合支援事業高校生等防災ジュニアリーダー活動報告会が行われました。各地区学習会の報告を幹事校の生徒がとてもうまくまとめて発表してくれました。活動内容に関する感想も盛り込まれ、ジュニアリーダーを目指す生徒たちが、その活動をどのように捉え今後に生かそうとしてくれているのかが伝わってきました。

宮城県訪問に関する報告は本校生が行いました。実際に被害に遭われた方や子どもを亡くされた方、被災地の学校で勤務された方など実体験を元にされた話を聞き、感じたことを報告しましたが、聞いているだけでその情景が目には浮かび、風化させない、伝えることの大切さがよく理解できました。私も開会式で挨拶をさせていただきましたが、集まってきている生徒たちの学ぼうとする姿勢、目つきに感動しました。そういった生徒たちの集まりですから

おそらくしっかりと伝わったことと思います。これらの報告の後には、各校のアクションプランと活動報告をポスターセッションで伝えてもらいます。大きな講義室を7カ所から8カ所に分け、時間帯も区切って説明、質疑応答を行います。ポスターを見ていると非常に細かな説明を1枚にまとめている学校、文字のみで伝える学校、グラフ等も入れて視覚に訴える学校など各校の取組の様子がよく伝わってきました。先ほどの地区での活動を早速取り入れた学校も多くあり、高校生のアイデアと実行力は凄いと思われました。発表後には付箋に書いた感想をポスターに張ってもらい、それもまたフィードバックするという形式でした。本校の発表は今後の取組がほとんどでしたが、周りの学校の本校を見る目にはかなりの期待感がありました。質疑応答はしっかりとできていましたが、それらをどのように実行して結果に結びつけさらに次年度に引きついでいくかが大事だなと感じさせられました。

各校発表の時間が終わると交流会です。140名ほど集まった生徒が28班に分れて意見交換をします。テーマは自分の学校の取組、アクションプランの成果、自分自身のことをもとに引き続き頑張りたいことや後輩に託したいことをお互いに話し合いました。その後各班のまとめを発表してもらったのですが、参加した3年生は1・2年生に来年も残って頑張りたいというメッセージを送っていました。それぞれの班でも仲間を増やしたい、意識を高めたい、引き続き頑張るなど積極的な意見も聞かれました。最後は地区毎に記念撮影で終了。防災ジュニアリーダーたちの今後の活躍に期待です。学校での防災教育の中心となってすでに活動しているリーダーたちもいました。環境防災科長の鈴木先生の参加生徒への「あなたたちの活動はこれから、先輩たちが敷いたレールにのるだけでなく自らが動き出さないといけない。しっかりと考えて行動し、中心的な存在としてやれるように頑張っていこう」という力強い、厳しい言葉かけがありました。まさしくその通りで、阪神・淡路大震災30年目の節目を迎える次年度は本校の取組が注目されます。振り返りつつ今後の防災のあり方を考えて行きましょう。

